

身近な問題について話しあい、日常のなかで人権を考える



2023年2月15日(水)に南小学校区地区協議会の研修会を開催し、28名が参加しました。家庭の人間関係から人権を振り返るDVD『話せてよかった』を鑑賞した後に「身近で誰もが経験したことがある問題」をテーマとして座談会を開催。すると、多くの人から活発な発言があり、会は大盛り上がりしました。「人権について学ぼう」と言うと、その内容の大きさに誰もが身構えてしましますが、今回のように、投げかけ方によっては、皆さんの思いや言葉を引き出して交流することができるのだなと実感しました。この経験を活かし、今後は身近な問題をテーマとして取り上げ、研修会を行うようにしたいと感じました。

(南小学校区地区協議会 小路 一さん)

家庭からふりかえる人権話せてよかった(2020年)プロデューサー:久慈麗人 / 山口多美子、脚本:守屋文雄、監督:長谷川知嗣、制作協力:株式会社グループ現代、企画・製作:東映株式会社 教育映像部



「2023年度 人権バスツアー」活動報告(2023.5.27)

ウトロ平和祈念館&柳原銀行記念資料館を訪ねる



大切な資料が消失した放火現場



京都飛行場建設のため集められた朝鮮人労働者が暮らしていた飯場



柳原銀行記念資料館1899年設立(京都市登録有形文化財に指定)

*参加者の感想

コロナ禍による活動自粛がやっと解禁となり、待たれていたバスツアーが開催の運びとなりました。最初に訪問した「ウトロ平和祈念館」では、在日3世の金秀煥副館長が案内に当たられました。彼の説明は深刻な内容にもかかわらず実に淡々と1世の気持ちを代弁し、激することなく話す言葉の端々に1世の方々への尊敬の念が感じられる語り口で、参加者に感銘を与えました。その刹那、とてつもない爆音と振動が我々を驚かせました。何と、隣接する陸上自衛隊大久保駐屯部隊の演習でした。我々の日常生活ではありえない騒ぎですが、世界には着弾点での破壊を目的とした実弾が飛び交う日常生活の国や地域があつて誠に痛ましい事です。

(在日外国人問題啓発研究部会 田向 正宣さん)

箕面市人権啓発推進協議会 ニュースレター

発行:箕面市人権啓発推進協議会
大阪府箕面市萱野1-19-4
箕面市立萱野中央人権文化センター
(らいとびあ21) 2F

お問い合わせ・ご相談はこちらから
072-722-2470
FAX: 072-734-6509
✉ jinken-jimu-minoh@silk.ocn.ne.jp

箕面市人権啓発推進協議会について詳しくはwebサイトへ
<https://wat-minoh.jp/>

箕面市人権啓発推進協議会

検索



初版第一刷発行 2023年7月 Copyright ©箕面市人権啓発推進協議会



「わっと」は当協議会の愛称です。人権ってなに?の「What」と、人権の輪が「わっと」広がってほしいという願いが込められています。

箕面市人権啓発推進協議会

ニュースレター

vol.32
2023.7発行



創設期から今もなお人と人を繋ぐ人権と平和事業のパイオニア

人の繋がりがあから今の人権協がある
人権の輪が広がる箕面であるために、できることをコツコツと

私は箕面市役所に入職してすぐ、広報広聴課に配属されました。当時は、毎月の広報紙「もみじだより」と、ひとつのテーマを深掘りする季刊誌「もみじグラフ」を編集発行しており、人権を特集した「もみじグラフ」で、部落問題や障害者問題などを取材したり、人権協の立ち上げにも関わったりしました。立ち上げのキーパーソン達が車中ミーティングするための運転手をしたこともあります。移動中しか会議時間が取れないような方々ばかりだったので、設立に必要な話の場をなんとか確保せねばと、市の部課長・係長や、初代人権協会長となる笹川俊彦弁護士など、様々な人を乗せて車を走らせ、後部座席で繰り広げられる会議に耳を傾けていました。こうして昭和53年(1978年)11月に人権協が生まれ、数年後には各専門部会もできて、私も事務局を務めたこともあります。

箕面では、様々な人権活動が全国に先駆けて起こりました。「箕面手をつなぐ親の会」「箕面市肢体不自由児者父母の会」「箕面市身体障害者福祉会」「障害者自立支援センター(瀬川あかつき園)」など、私も多くの皆さまに身近で学ばせ

箕面市人権啓発推進協議会 会計 太田 克己さん

1974年に箕面市役所に奉職、広報広聴課や人権自治推進課などに在籍。人権協の創設に関わる。市役所を退職後、2014年から当協議会の会計に就任。2021年まで同和問題啓発研究部会長を務めた。

ていただきました。さらには“福祉ではなく労働だ”をスローガンに全国で初めて「財団法人箕面市障害者事業団」ができたのも箕面で、全国各地から視察を受け入れました。

気楽な催しを一つの契機にして若い人や新しい人の参画を促し、繋がってこよう

人権協はかつて、若者が中心となって運営していました。今また、若い世代の参入が必要な段階にあると感じます。昨年度の人権フォーラム基調講演には学生など若い人の参加が多くありました。単発の催しにも「かすうどんを作ろう」「バスツアー」など新規参加者が多いものがあります。このような楽しく参加しやすい学びの場を今後積極的に企画するなどして、若い世代を迎えるための取組みを具体的に実行していきたいですね。楽しみを契機に、その背景を知ることによって「人権は平等に、無条件に尊重されるものである」という本質を捉えることはできません。設立から今に至るまで、多くの方々の協力と熱意があつて今の人権協があります。今まで人権協がどのように人権課題と向き合ってきたかも伝えながら、人権協創設期のように、人と人を繋ぐ力になれば嬉しいのです。